

2012年4月16日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名 楽農倶楽部

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

多摩の団地住民による野菜・苗づくり事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

高齢者と子供等が参加できる共通の場を創り、市民が社会活動に参加できる喜びと誇りを持てるように支援をします。さらに次世代を担う子供たちのため、命の大切さや歴史・文化の伝承の場をつくります。

動植物は、命のバトンランナーであり、野菜は太陽・水・土壌を利用して種の伝承をおこなっています。この成り立ちを子供たちに伝えることは大変重要なことであります。多摩は古くから野菜栽培が行われてきました。この環境を生かした協働する場を創ります。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

1 季節の野菜など 10,000 本苗の委託育成を行います。

(1) 苗作りを委託する市民には団地の高齢者なども含めます。

(2) 苗作りを委託する市民には多摩市教育委員会と連携し小中学校の生徒もやってもらいます。

(3) 障害を持つ人の団体など福祉活動団体と連携して苗の育成を依頼します。

2 苗作りの技術の向上施策を行います。

高齢農家、恵泉大学、多摩市グリーンライブセンターの専門家の指導を受けます。

3 野菜の販路を拡大します。

(1) 野菜を栽培して、野菜を販売する場を他の市民団体の催しなどと連携して行います。

(2) 花などの苗を直接販売します。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

子供、障害をもつ人、高齢者が地域活動への参加できる場を創り、誰もが誇りと喜びをもてるまちを創ります。バザーでも顔の見えるまちづくりが出来、安心安全なまちづくりになります。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

多摩市は、東京オリンピックを境に大きく姿を変え、農村からベッドタウンへ、供給地から消費地へと変貌してしまいました。命を育む大地が失われ、そこに生まれ成長する子供たちは、自然から学ぶ機会が奪われてしまい、より安心・安全な社会が求められる今、野菜づくりを通して命の大切さ・命の支え合い、成長と自立のまちづくりを目指し、地域や教育委員会・小中学校と連携して次世代の人づくりに一步一步進んでまいります。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし